

# 京都市子ども安全ネットワークニュース

vol.9 平成 19 年 11 月 発行：京都市子ども安全会議事務局

教育委員会体育健康教育室 213-5472

<http://www.edu.city.kyoto.jp/taiikukenko/>

## 「すべては子どものために」熱い思いがここに結実！

「第2回京都市スクールガード養成講習会」を開催！



京都市子ども安全会議との共催により，第2回「京都市スクールガード養成講習会」が，10月26日（金）にルビノ京都堀川で開催され，日頃，見守り活動（学校安全ボランティア活動）をされているスクールガードの方々など，全市から230名の参加がありました。

第1部では，学校安全モデル地域である正親小学校から実践発表がありました。学校内の安全の取組や地域・保護者・PTAが一体となって構成されている「正親見守りたい」の活動内容が画像で紹介され，「気楽に・気長に・危険なく」を合言葉に「地域の子どもは地域で守り育む」熱意が伝わってきました。

第2部は，「地域安全マップの充実と子ども安全」をテーマに，パネラーに学校（山ノ内小）・地域（正親小学区）・PTA（洛央小）・関係機関（右京警察署）が登壇，同志社大学大学院・谷口知弘教授をコーディネーターとしたパネルディスカッション。安全マップの作成に至る様々なプロセスや情報更新などの紹介がありました。学校安全ボランティア活動は，大変なご苦労の中にも「すべては子どものために」といった熱い思いに支えられていることをパネラーの皆さんの発言を通じてひしひしと感じました。

また，会場の皆さんも，コーディネーターの質問に「×」2色のカードで答えたり，メモ用紙で日頃気にかかることや意見を出すなどワークショップも取り入れられ，活気溢れる養成講習会となりました。

参加者からは，「他の小学校区での取組の紹介など具体的でわかりやすかった，持ち帰って広げたい。」「子どもの安全・安心を確保するためには，大人の力が欠かせないと改めて気付いた。」「安全マップの大切さを痛感させられた。」などの声が寄せられており，早速，各地域で活用されるものと期待されます。

なお，この養成講習会の様子は，翌日（10/27）の京都新聞朝刊でも取上げられました。（<http://www.kyoto-np.co.jp/article.php?mid=P2007102700044&genre=F1&area=K1B>）

「京都市スクールガード養成講習会」は2月にも開催予定!!参加をお待ちしています。



【画像で紹介する正親小の実践発表】

【第2回京都市スクールガード養成講習会】

日時：平成19年10月26日（金）

午後3時～5時

場所：ルビノ京都堀川

実践発表

正親小学校 学校安全主任 田中秀樹氏

パネルディスカッション

テーマ「地域安全マップの充実と子ども安全」

コーディネーター 同志社大学大学院教授 谷口知弘氏

パネリスト

- ・学校 山ノ内小学校教務主任 久保賢洋氏
- ・地域 上京平安レディース 麻田恵美子氏
- ・PTA 洛央小学校PTA 駿河悦子氏
- ・関係機関 右京署生活安全係長 杉野孔明氏



【会場へ意見を聴く谷口教授】



【それぞれの活動を通じ、発言するパネラーの皆さん】



【会場から寄せられた意見（左のホワイトボード）に議論を深める様子】

～会場から多数寄せられた意見の一例～

子ども自身が安全マップを作成することは、どのような所が危険かを認識でき非常に効果的。

安全マップづくりは、自治連の各種団体と連携すると、多くの目で確認でき、よいものが作成できる。

地域の状況が刻々と変化するので、安全マップは毎年新しく作成することが必要。データをデジタル化すれば更新しやすい。

マンションなどの屋上や地下、鉄道の高架下や地下街にも注意する必要がある。安全マップそのものが立体化される必要はないでしょうか。

我が家では地域安全マップを冷蔵庫の正面に貼り付けています。（子どもの目の高さ）

ボランティア活動者は高齢者が多く、今後の継続性が一番の課題である。

中学生（中学校としての取組）の活動も必要。（小中連携の面からも働きかけが必要。）

門掃きや散歩のついでなど、日課を兼ねて見守り活動をお願いしている。

子どもから「パトロールのおばちゃん」と声を掛けられてとてもうれしいです。